

門職専攻、講義106クラス、演習22クラスであるが、それぞれのクラスでケーススタディ、グループワーク、個人指導、グループ指導を実施している。

また授業方法は、シラバスの調査によると、経営戦略専攻では138クラス中、延べ、ディスカッション115クラス（83%）、プレゼンテーション44クラス（32%）、ケーススタディ75クラス（54%）、グループワーク36クラス（26%）が実施しており、会計専門職専攻では128クラス中、延べ、ディスカッション74（58%）クラス、プレゼンテーション10クラス（8%）、ケーススタディ22クラス（17%）、グループワーク10クラス（8%）が実施している。

少人数教育については、2005年度春学期は、経営戦略専攻では45クラス中、1～10人が21クラス（47%）、11～20人が14クラス（31%）、21～30人が4クラス（9%）、31～40人が2クラス（4%）、41人超が4クラス（9%）であり、会計専門職専攻では64クラス中、1～10人が31クラス（48%）、11～20人が6クラス（9%）、21～30人が10クラス（16%）、31～40人が14クラス（22%）、41人超が3クラス（5%）であった。必修、コア科目群の授業が多人数になる傾向がみられる。

マルチメディアの利用は、2005年度開講科目で、経営戦略専攻は、教員用PCが93クラス（68%）、学生用PCが30クラス（22%）、教材提示装置87クラス（63%）、ビデオ39クラス（28%）、DVD 22クラス（16%）、その他（プロジェクタ・カセットテープ・CD・ビデオカメラ・OHP等）が33クラス（24%）の利用であり、会計専門職専攻は、教員用PCが33クラス（26%）、学生用PCが9クラス（7%）、教材提示装置36クラス（28%）、ビデオ4クラス（3%）、DVD4クラス（3%）、その他（プロジェクタ・カセットテープ・CD・ビデオカメラ・OHP等）が17クラス（13%）の利用であった。なお、遠隔授業は実施していない。

11.3.4 教育成果のあり方

【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

（必須要素）教育・研究指導の効果を測定するための方法の適切性

【評価項目 6-4-2】 厳格な成績評価の仕組み（成績評価法）

（必須要素）学生の資質向上の状況を検証する成績評価法の適切性

<開設時に設定した目標>

1. 定期試験のみで成績評価をしない。出席状況、課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。（多面的評価の実施）
2. GPAの制度を導入する。
3. 成績疑義申立申請の制度を導入する。

(現状の説明)

1. 定期試験の実施と成績評価

(1) 経営戦略専攻

経営戦略専攻においては、学生の成績評価を厳密に行う。成績評価に際して次のような原則を設ける。

- ① シラバスで成績評価の基準を明確にする。
- ② 定期試験のみで成績評価をしない。出席状況、課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。
- ③ 必修科目および選択必修科目は、定期試験（筆記試験もしくはレポート試験）を必ず行う（「課題研究」や「Individual Research」関係科目を除く）。

また、成績評価を次のとおり行い、表記する。

- ① 各科目の成績評価を厳密に行い、各科目ともシラバスに達成目標を設定し、目標に到達していないものは不合格とする絶対評価を行う。
- ② 合格は、「A+、A、B+、B、C+、C」の6段階評価とし、不合格は「F」とする。

(2) 会計専門職専攻

会計専門職専攻においては、学生の成績評価を厳密に行う。成績評価に際して次のような原則を設ける。

- ① 全科目において定期試験（筆記試験またはレポート）を実施する。
- ② 必修科目および選択必修科目は、原則として筆記試験を行う。
- ③ 定期試験のみで成績評価をしない。出席状況、課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。
- ④ シラバスで成績評価の基準を明確にする。

また、成績評価の結果を次のとおり表記する。

- ① 合格は、「A+、A、B+、B、C+、C」の6段階評価とし、不合格は「F」とする。
- ② コア科目、ベーシック科目は相対評価とする。アドバンスト科目は絶対評価とし、1クラスにおける各評価段階（A+～F）の割合を原則として定める。

2. GPA

本研究科では、成績の総合評価システムとしてGPA制度を導入する。GPAは、各学期終了後に算出され、奨学金の受給資格審査の資料等に使用する。また今後、成績上位者に対する表彰制度を設ける検討する等、モチベーションを高め、学習意欲を高める工夫をする。GPAの計算式の分母は履修登録単位数であり、単位修得できなければGPAは下がっていくので、登録した科目は責任を持って履修するよう指導する。

成績評価は、A+、A、B+、B、C+、C、Fの7段階で行い、Fは不合格とする。それぞれの成績評価に対する Grade Point および素点換算について次のとおりとする。

評価	GP	素点換算（100点満点）の目安
A+	4.0	90～100
A	3.5	85～89
B+	3.0	80～84
B	2.5	75～79
C+	2.0	70～74
C	1.5	60～69
F	0.0	0～59

3. 成績発表から1週間を成績疑義申立申請期間とし、学生から成績評価に関する調査の申し出がある場合、担当者に事務室から質問内容を問い合わせ、学生にその結果を伝える。

11.3.5 教育の質の向上

【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）

- （必須要素）教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況
- （必須要素）シラバスの作成と活用状況
- （必須要素）学生による授業評価の活用状況
- （選択要素）学生満足度調査の導入状況
- （選択要素）卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- （選択要素）高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

<開設時に設定した目標>

1. 教員の資質維持向上の方策

(1) 授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施に関する対応

- ① 授業評価の実施
- ② 授業内容および授業方法の改善を図るための委員会の設置
- ③ 研究会、講習会等の実施

(2) 実務経験を持たない専任教員は、教材用の事例研究の作成に携わったり、産学連携による研究に従事して成果を発表するなどを行い、継続的に教育能力の点検を行う。

(3) 実務家専任教員は、教材の作成、教授法に関する研修を通して教育能力の向上に努める。また、自らの実務経験を最新のものに更新するために、産学連携による研究に積極的に参加して、実務家、研究者との交流を行う。

(4) 実務経験を持たない教員と実務家教員との共同研究を推進し、実務と理論とのギャップを埋める機会を積極的に提供する。

2. シラバスの提示

3. 授業科目別成績統計表および定期試験問題の縦覧